

伝教大師云、**「我等從昔來、數聞世尊說とは、昔法華經の前、華嚴等の大法を説くを聞けるを謂うなり。未曾聞如是、深妙之上法とは、未だ法華經の唯一仏乗の教を聞かずと謂うなり」**等云云。華嚴・方等・般若・深密・大日等の恒河沙の諸大乘經は、いまだ一代肝心たる一念三千大綱骨髓たる二乗作仏・久遠実成等いまだきかずと領解せり。

又今よりこそ諸大菩薩も梵・帝・日・月・四天等も教主積尊の御弟子にては候へ。されば宝塔品には、此等の大菩薩を仏我が御弟子等とをぼすゆへに諫曉云、**「諸の大衆に告ぐ、我が滅度の後に、誰か能く此の經を、護持し誦誦せん、今仏前に於て、自ら誓言を説け」**とは、したたかに仰下しか。又諸大菩薩も**「譬えば大風の、小樹の枝を吹くが如し」**等と、吉祥草の大風に隨、河水の大海へ引がごとく、仏には隨まいらせしか。而ども靈山日淺くして夢のごとく、うつゝならずありしに、証前の宝塔の上起後の宝塔あて、十方の諸仏來集せる、皆我が分身なりとならせ給、宝塔は虚空に、釈迦・多宝坐を並べ、日月の青天に並出せるがごとし。人天大会は星をつらね、分身の諸仏大地の上、宝樹下師子のゆかにまします。華嚴經の蓮華藏世界は、十方・此土の報仏各々に国々にして、彼界の仏、此土に來て分身となならず。此界の仏、彼の界へゆかず。但法慧等の大菩薩のみ互に來會せり。大日經・金剛頂經等の八葉九尊・三十七尊等、大日如來の化身とわみゆれども、其化身、三身円満の古仏にあらざ。大品經の千仏・阿彌陀經の六方諸仏、いまだ來集の仏にあらざ。大集經の來集の仏、又分身ならず。金光明經の四方四仏化身なり。総て一切經の中に、各修各行の三身円満の諸仏を集て、我分身とわとかれず。

これ寿命品の遠序なり。始成四十余年の積尊、一劫・十劫等已前の諸仏を集て分身ととかる。さすが平等意趣にもにず、をびただしくをどろかし。又始成の仏ならば所化十方に充滿すべからざれば、分身の徳は備たりとも示現して多きなし。天台云、「分身既に多し、当に知るべし、成仏の久しきことを」と等云云。大会のをどろきし意をかゝれたり。

其上に地涌千界の大菩薩、大地より出来せり。積尊に第一の御弟子とをぼしき普賢・文殊等にもにるべくもなし。華嚴・方等・般若・法華經の宝塔品に來集せる大菩薩、大日經等の金剛薩埵等の十六大菩薩なんども、此の菩薩に對当すれば、獼猴の群中に帝釈の來給がごとし。山人に月卿等のまじわれることならず。補処の弥勒猶迷惑せり。何況其已下をや。此千世界の菩薩の中に四人の大聖まします。所謂上行・無辺行・淨行・安立行なり。此の四人は虚空・靈山の諸大菩薩等、眼もあはせ心もをよばず。華嚴經の四菩薩・大日經の四菩薩・金剛頂經の十六大菩薩等も、此の菩薩に對すれば、翳眼のものゝ日輪を見るがごとく、海人が皇帝に向奉がごとし。大公等の四聖の衆中にあつしにたり。商山の四皓が惠帝に仕にことならず。巍々堂々として尊高也。釈迦・多宝・十方の分身を除ては、一切衆生の善知識ともたのみ奉ぬべし。弥勒菩薩心に念言すらく、我は仏の太子の御時より三十成道、今の靈山まで四十二年の間、此界の菩薩・十方世界より來集せし諸大菩薩、皆しりたり。又十方の淨・穢土に或は御使、或は我と遊戯して、其国々に大菩薩見聞せり。此大菩薩の御師などはいかなる仏にてやあるらん。よも此釈迦・多宝・十方の分身の仏陀にはにるべくもなき仏にてこそをはすらめ。雨の猛を見